

SNSの未来について



まずは現状の確認をしていきましょう！

◆社会全体のデジタルトランスフォーメーション

SNSの進化は、単なるコミュニケーションツールの変化に留まらず、社会全体のデジタルトランスフォーメーションを推進しています。

政府機関や自治体もSNSを活用し、市民とのコミュニケーションを強化。例えば、日本の経済産業省や厚生労働省は、X(旧Twitter)やLINEを通じて、重要な情報の発信を行っています。



◆教育現場でのSNSの活用

教育の現場でも、SNSの利用が進んでいます。

教育内容の共有や、リモート授業のサポートとしての活用が進む中、学生同士のコミュニケーションの場としてもSNSが役立っています。



◆SNSのリスクと対策

SNSの進化と普及は、多くの利点をもたらしていますが、リスクも無視できません。フェイクニュースの拡散やプライバシーの問題など、新しい問題も生じています。



◆グローバルなコミュニティの形成

SNSの普及により、国境を越えたコミュニケーションが日常的に行われるようになりました。FacebookやX(旧Twitter)は、世界中の人々をつなぐプラットフォームとなっています。

このような環境下で、新たなグローバルなコミュニティが形成されつつあります。

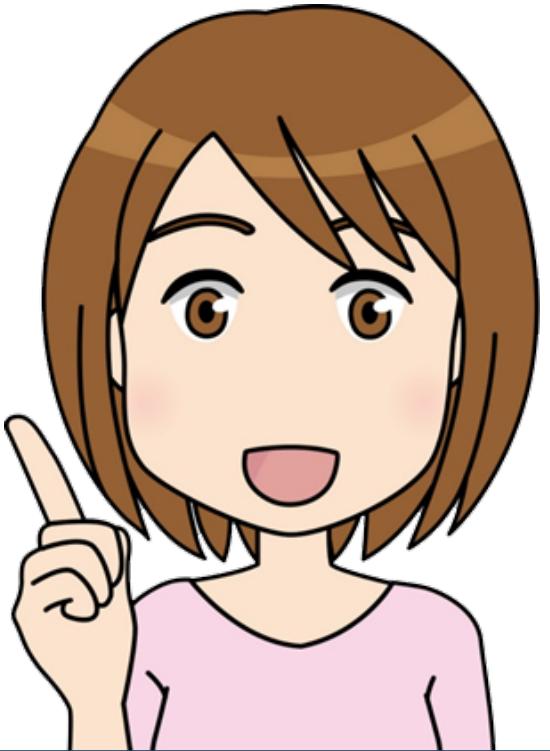




今後どうなるのか？



そもそも…



「人を集めめる」

「宣伝が出来る」

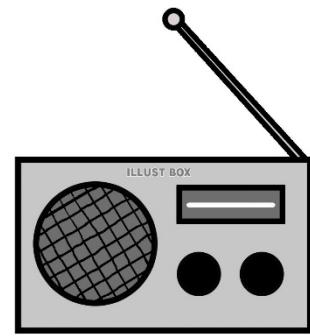
「売買が生まれる」

という仕組みは長年変わらない。

「人を集める」 集客・多くの人が見るコンテンツ



チラシ



ラジオ



TV(テレビ)



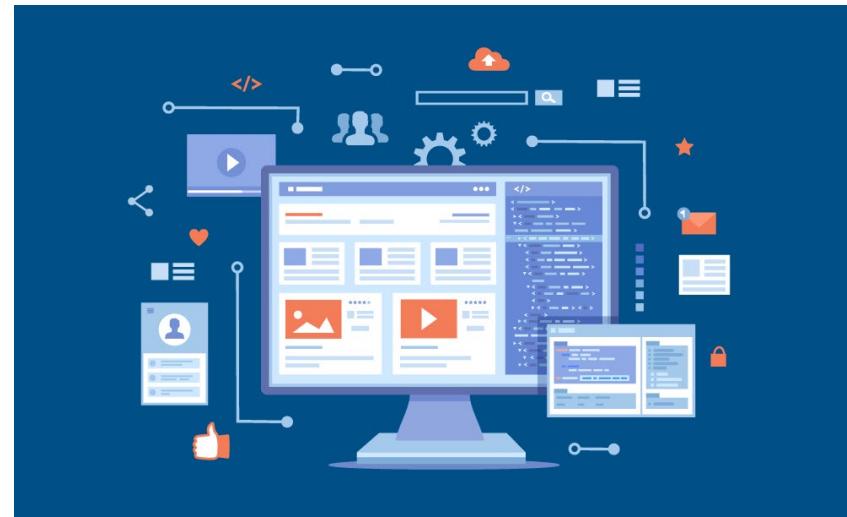
雑誌



ブログ



SNS



Webサイト

「宣伝が出来る」 どんな人々にどんな事を伝える



年齢は？



曜日は？



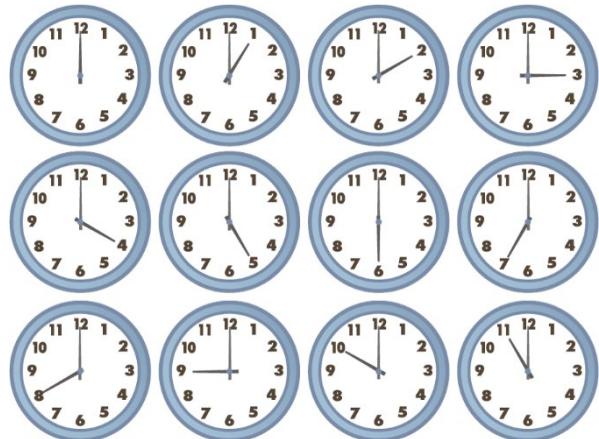
職業は？



エリアは？



性別は？



時間は？

「売買が生まれる」人が動くことでビジネスが生まれる



コンテンツ作成費用



デザイン費用



印刷費用



配送費用



デバイスの端末費用



配信費用



スポンサー費用



保守費用



管理費用

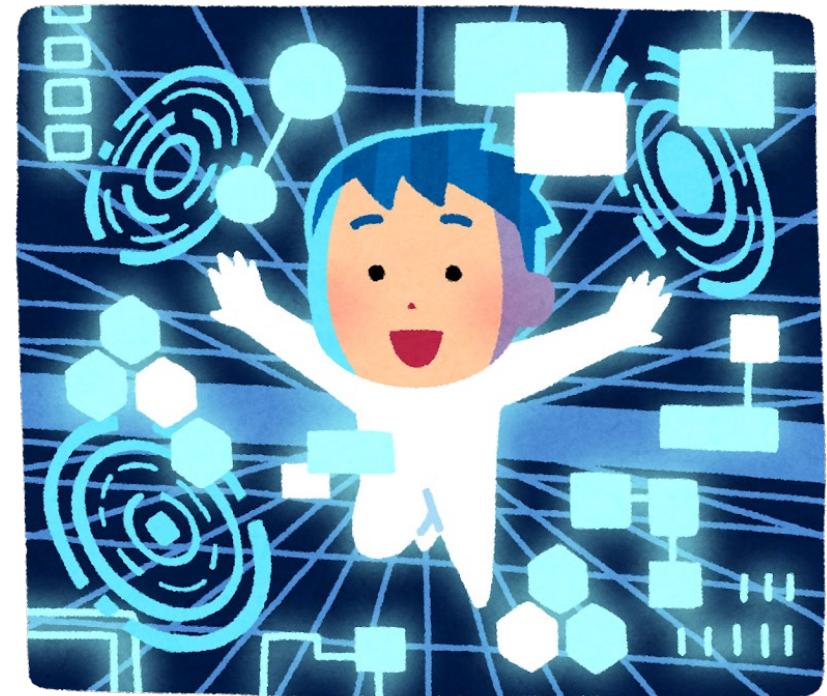


そして、そのために必要な知識・技術として

未来のSNSはAIとの統合により、よりパーソナライズされたエクスペリエンスが提供される

未来のSNSは、拡張現実(AR)や仮想現実(VR)の技術を取り入れた新しいコミュニケーション形態が期待されています。

また、AIとの統合により、よりパーソナライズされたエクスペリエンスが提供されるでしょう。



※エクスペリエンスとは

エクスペリエンス(experience)は、英語で「経験」や「体験」を意味する単語です。

ビジネスやITの用語としては、特定の対象物(機器、システム、サービス、組織など)との関わりを通じて得られる体験の総体、およびそこから生じる印象や認識のことを指します。

AIとは、Artificial Intelligence（アーティフィシャルインテリジェンス）人工知能の略です。コンピュータがデータを分析し、推論、判断、最適化提案、課題定義や解決、学習などを行うことができます。

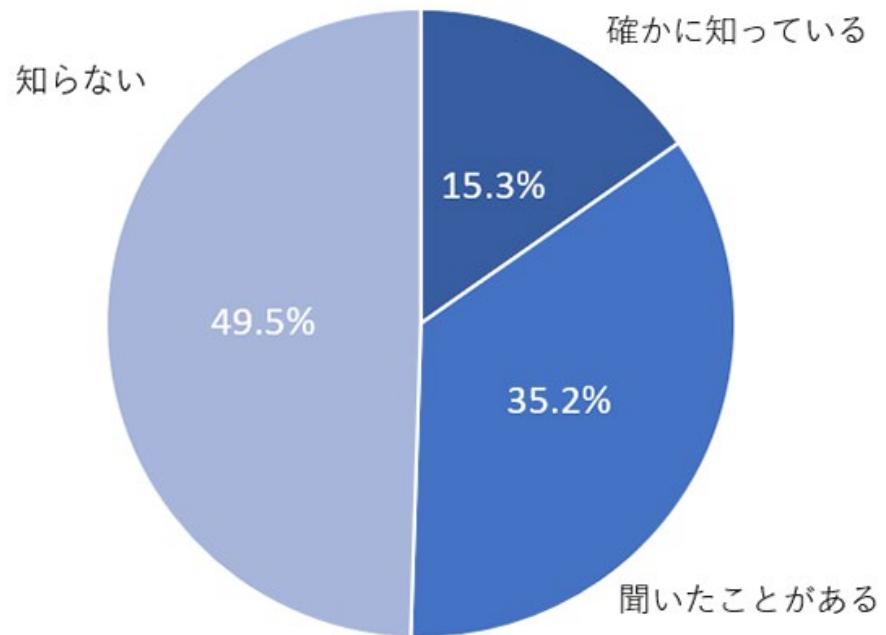
AIは、コンピューターサイエンスの一分野で、音声認識、意志決定、視覚など、通常は人間の知能に関連するタスクをコンピューターシステムが学習して実行することを可能にします。



AIとは、Artificial Intelligence（アーティフィシャルインテリジェンス）人工知能

生成AIの認知率

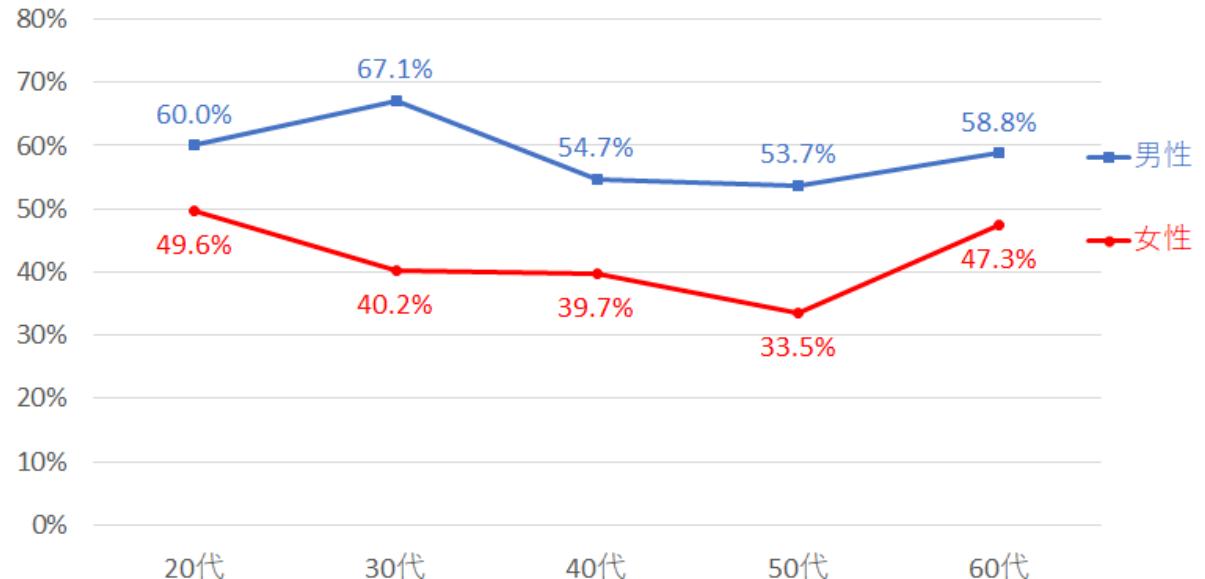
あなたは「生成AI」という言葉を知っていますか。(ひとつだけ)



出所:NRI「AIの導入に関するアンケート調査」(2023年5月)

※AIについての認知度は…

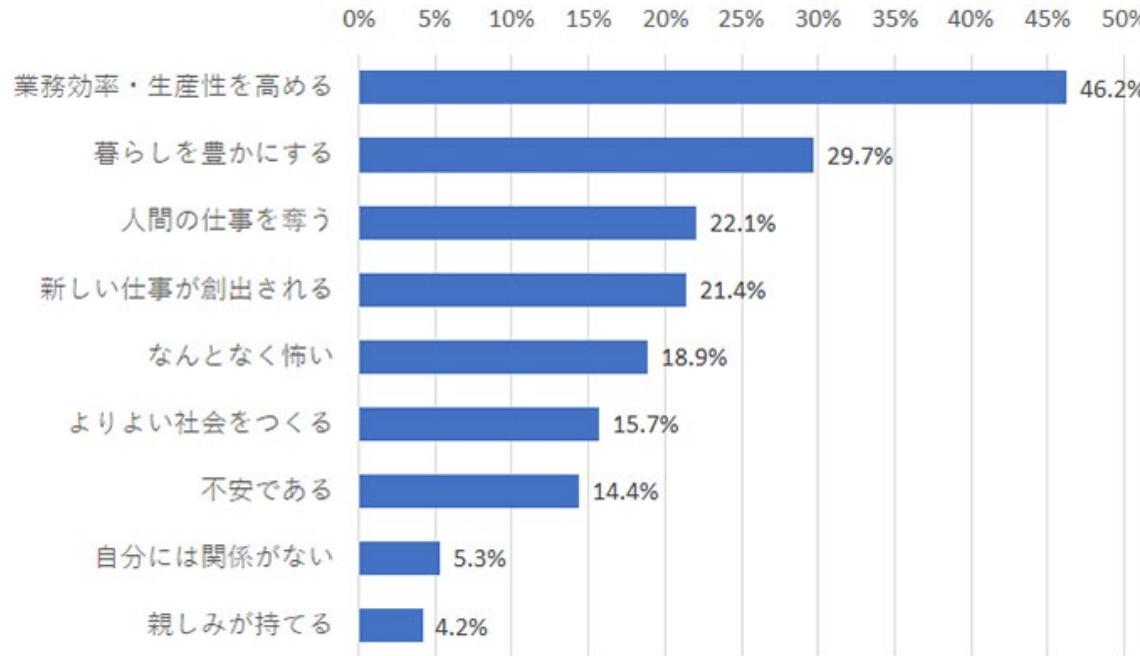
認知率を性・年代別でみると、全体的に男性における認知率が高くなっていますが、男性の年代別認知率に大きな差は見られません。女性は、20代から50代にかけて、年齢が高いほど認知率が減少する傾向にあります。女性の60代では認知率が47.3%と、20代の49.6%に次いで高い結果となりました。



出所:NRI「AIの導入に関するアンケート調査」(2023年5月)

AI(人工知能)のイメージ

「AI(人工知能)」のイメージについて、あてはまるものをお知らせください。



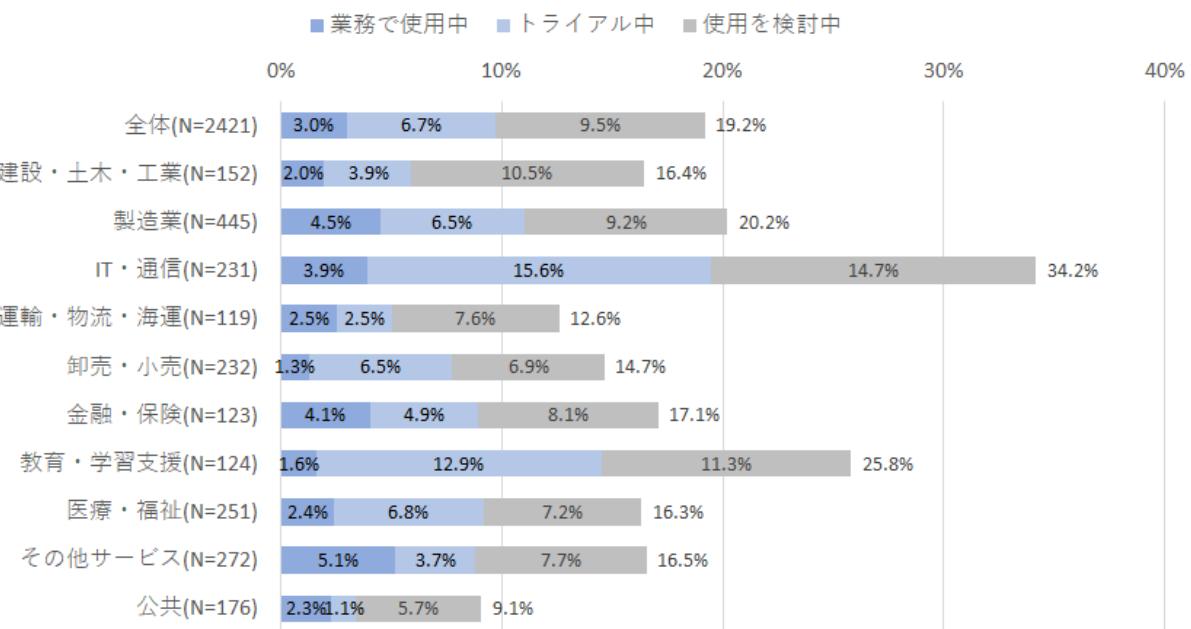
出所:NRI「AIの導入に関するアンケート調査」(2023年5月)

※ AIにはプラスとマイナスのイメージがある

今後、生成AIが浸透することで、具体的に業務でAIを使うようになると、AIがより身近になってイメージが変わる可能性もあるでしょう。漠然と「AIで仕事がなくなる」と恐れるのではなく、AIの利用が有効な場合はそれを活用し、人間がやるべき仕事を見極めていくことが重要です。

生成AIの職場における導入・検討状況

ご自身の仕事における業務の中で、「生成AI」のツール・アプリ・ソフトを使っていますか。

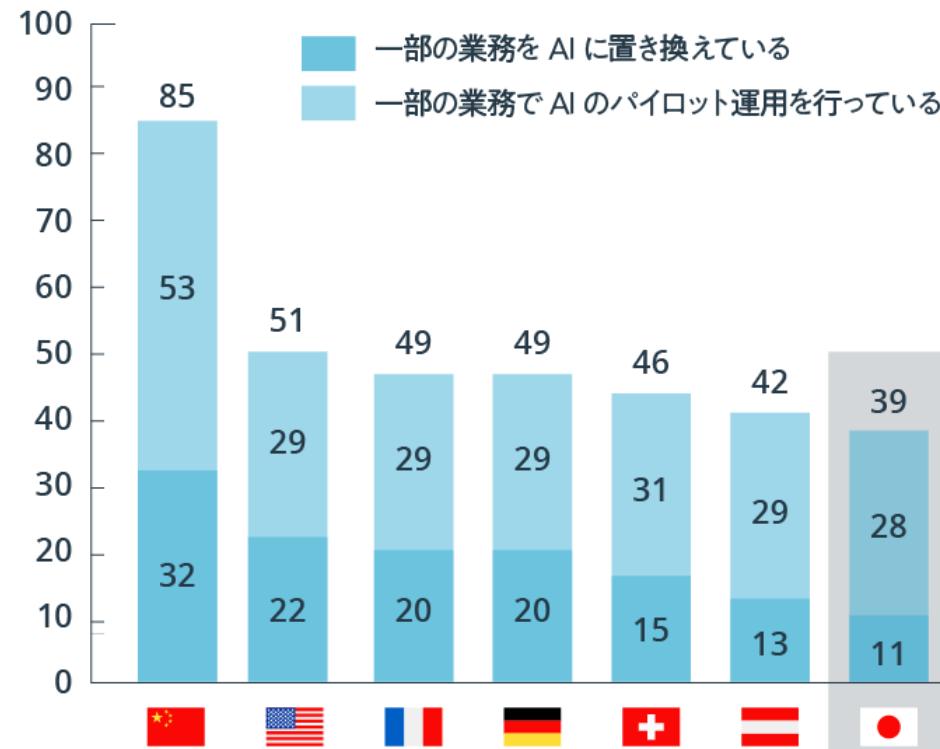


出所:NRI「AIの導入に関するアンケート調査」(2023年5月)

● 日本は7か国の中で最下位

総務省が公表している「令和元年版情報通信白書」によれば、日本の「AIアクティブ・プレイヤー」の割合は、中国、アメリカ、フランス、スイス、オーストリア、日本の7か国の中で最下位です。

国別の割合



産業別の割合

	日本	他国平均
消費者向け産業	35%	50%
エネルギー	38%	67%
金融機関	42%	52%
ヘルスケア	23%	49%
産業財	32%	55%
テクノロジー/メディア/通信	60%	71%
合計	39%	55%





まずはAIに対して前向きな考え方で、
来る時代に取り組んでいきましょう！

まとめ

いま知つておくべきWebという世界・SNSやAIをまず普段からたくさん活用してみましょう！

ビジネスモデルは変わらない

「人を集める」⇒「宣伝が出来る」⇒「売買が生まれる」

という仕組みは長年変わらない

テクノロジーの変化と時代の変化にアンテナを張る

そして、アイデンティティー、自己認識も

変化していくことが大切かもしれません。

